



全国のJAでは、「不断の自己改革」のPDCAサイクルとして、組合員との徹底した対話を通じた自己改革実践サイクルに取り組んでいます。PDCAとは、Plan(計画)→Do(実行)→Check(確認)→Act(改善)の頭文字をとったもので、この一連の流れを繰り返して業務を継続的に改善する取り組みです。各地で進む自己改革実践サイクルの取り組みをご紹介します。



宮城県 JA新みやぎ

土地利用型園芸作付面積の拡大により、 農業者の所得増大を目指す

P JA新みやぎでは、農業者の所得増大を目的に、水田での園芸作物への転作や、作付面積拡大(土地利用型園芸作付面積の拡大)に取り組んでいます。水田を活用した園芸作物の作付面積は、令和4年度は84haに達しました。令和5年度は同面積を98haとすることを目標に据えました。

D 水田の活用に向け、JA新みやぎは、令和元年以降新たにピーマンとサツマイモの生産振興に取り組んでいます。

生産者が転作初年度から園芸作物を栽培しやすくなるよう、近隣JAやJA全農みやぎと連携し、県が展開するサプライチェーン推進事業を活用しています。また令和5年、適度な湿度や温度で貯蔵できるキュアリング施設を独自に設置することで、栽培面積拡大で収量増を目指すサツマイモの品質を向上させ、高単価で出荷できるよう工夫しました。

組合員が納得して、収益性の高い土地利用型園芸作物の作付けに取り組めるよう、園芸指導員やTAC中心に訪問巡回する中で、地域としての販売戦略や栽培技術についてチラシ等を活用して丁寧に提案しています。

水田を活用した、園芸作物の作付面積



A 栽培講習会等を経て得た組合員からの意見・要望は、次年度経営計画・中期経営計画への反映を検討します。農業者の所得増大に向け、園芸作物の生産拡大や高付加価値化を目指し、継続して取り組み施策の点検・見直しを実施します。

今年7月に開催されたJA新みやぎさつまいも研究会設立総会。研究会ではサツマイモ栽培から出荷までの講習会等を行う。



C さらなる園芸作物の作付面積拡大を目指し、各部門で栽培講習会や出荷目揃え会を開催しています。これらの機会を通じて、

組合員同士、JA職員らと密な情報共有を行い、組合員からの意見・要望を丁寧に収集しています。

